社会臨床ニュース

第 59 号

2005 年 12 月 11 日

発行◆日本社会臨床学会 〒310-5812 茨城県水戸市文京 2-1-1 茨城大学教育学部情報文化教室林研究室
E-Mail: shakai_rinsho@yahoo.co.jp Web: http://www.geocities.jp/shakai_rinsho/
FAX: 029-228-8314 TEL: 029-228-8314
郵便振替: 00170-9-707357 銀行: みずほ銀行東陽町支店(普通) 8013029

沖縄総会のお知らせと合宿学習会報告

三輪寿二(学会運営委員長)

合宿学習会を終えて

10月の終わりに障害者自立支援法が国会を通過しました。社臨では、それに先立つ10月8日(土)、9日(日)に、神奈川県三浦市のマホロバ・マインズで、これをテーマにした合宿学習会を持ちました。飯島勤さんと古賀典夫さんに発題をお願いしました。お二人に共通することは、この支援法が全体として障害者への福祉的援助を後退させるものであり、結果、障害者の「自立」を阻むことになる、あるいは障害者の生活を窮地に追い込む、もっと言えば優生思想に連結している、という論旨でした。飯島さんは事実資料を準備して、古賀さんは支援法反対の運動に関わる当事者としての立場から、説得的に論じてくれました。学習会については、『社会臨床雑誌』第13巻3号に詳しく報告しますのでご覧下さい。

ただ、発題の後の討論や翌日の拡大運営委員会でも話題になったのですが、この学習会では十分に議論できなかったこともあります。この支援法の成立は、社会福祉基礎構造改革の一環であり、そうであれば、介護保険等との一体化が今後予想されるわけですが、それら全体としての福祉構造改革をどの様に捉え問題化するのか、ということが一つです。しかし、他方で、福祉が充実することが障害者の「自立」と等価であるのか、という疑問もあるわけです。福祉の充実は、福祉制度の中でいわば「管理」されてゆくことをも含んでおり、障害者の暮らしの中から考えていくとき、福祉からの自由という側面をどの様に考えるのか、ということがあるわけです。この問いは、追いつめていくと、自立ということの価値性を前提にしてよいのか、という所まで進んでいくことになるように思われます。

日本社会臨床学会第14回総会(沖縄)

第14回総会は沖縄大学で開きます。実行委員長を、運営委員でもある加藤彰彦さんをお願いして、2006年5月20日(土)、21日(日)の開催です。総会については、後の頁に案内を掲載しましたので、是非ご覧いただき、ご予約に加えていただきたいと思います。また、宿泊についても人数に制限がありますが、交流会会場でもある宿泊先の案内がありますので、ご覧頂きたいと思います。

第14回総会のイメージについて、少し述べておきたいと思います。第一日目は、定期総会とシンポジウムI、そして交流会を予定しています。シンポジウムのイメージは、沖縄の方々に身近に関心を持つ

ていただけるテーマを設定しつつ、現地での問題を共有していきたいということです。第二日目は、午前に篠原睦治さんの記念講演、午後はシンポジウムⅡを予定しています。記念講演は、篠原さんの「臨床心理学」への関係を個人的に語っていただくのですが、それは同時に社会臨床学会の基軸の紹介ともなるだろうと思います。そして、シンポジウムⅡでは、先述の学習会での積み残し課題をテーマの中心に据えています。シンポジストなど未定な部分もありますが、多くの方々のご参加をお待ちしています。

日本社会臨床学会第14回総会のお知らせ

ニュース総会特集号は2006年4月に発行予定ですが、それに先立って、少しでも第14回総会の日程やプログラムについてお知らせしておきたいと思っています。未定のところもありますが、内容については興味深いものになっています。沖縄の地で起きていること、「福祉」の改編にともなう障害者の暮らしのこと、そして社会臨床学会のこと、などが少しでも見えてきて、かつ考え合っていける場になることを期待しています。どなたでもご参加いただけます。総会、交流会ともどもに多くの方々の参加をお待ちしています。

【日時及び場所】

日 程： 2006年5月20日(土)、21日(日)

場 所： 沖縄大学3号館(101教室)

〒902-8521 沖縄県那覇市国場555 電話098-832-2902(沖縄大学学生部長室)

実行委員長 加藤彰彦

総会参加費： 2000円

交流会参加費： 4000円(予定)

【プログラム】

5月20日(土)

10:30～12:00 定期総会

運営委員会中間総括案、会計報告など。

13:00～17:00 シンポジウムⅠ いま、沖縄の子どもたちは……

沖縄の子どもの問題は、主に基地とからめて、米国占領下の沖縄と子どもという視点から捉えられてくることが多かった。それは、教職員組合の熱心な「反基地闘争」を基本にした「子どもの人権」を保障するという形で結実していたと思う。しかし、1972年に日本への復帰が行われる中で、戦後の沖縄はより日本化され、新たな課題が生まれてきている。癒しの島として観光地とされ、経済的には高い失業率があり、基地と戦争への不安は日常化している。そうした状況の中で、児童虐待やいじめも増えてきている。できる限り、子どもたちと接している方々の発題を受けながら、沖縄の子どもの現在を考えあう集いとしたい。(加藤)

発題：子ども会、学童保育等関係者
離島の子どもに関わっている方
児童施設に関わっている方
児童相談所等の職員
司会：加藤彰彦、他

18:30～21:00 交流会（自治会館）

5月21日（日）

10:00～12:00 記念講演 「臨床心理学」にからみ、あらがって四十年、そして今……

講演者：篠原陸治（和光大学）

ぼくは、分けないこと、一緒に生きることこだわって、臨床心理学会の改革、社会臨床学会の活動などに関わってきた。四十年前とは、「臨床心理学の本場」アメリカに心理学インターンとして、旅立った頃である。あのころ、ぼくは、「深層心理」「心理テスト」などに夢中になっていた。そして、今……。 (篠原)

13:00～16:00 シンポジウムII 進行する「福祉」の改編を問う

——社会福祉基礎構造改革の検証——

障害者自立支援法が国会を通過した。しかし、それは、今後の福祉の大きな変化の一端にすぎないのではないか。シンポジウムでは、三つの内容に沿って考えあいたい。一つは、日本の福祉をめぐって、全体像としての社会福祉基礎構造改革の問題点を見据えること。第二は、沖縄における福祉の現状を明らかにしつつ、構造改革がどのような影響を及ぼしていくかをいくらからでも考えてみる。そして、第三は、福祉の後退が問題視されながら、他方で福祉制度の充実が「管理」を生み出す可能性があり、そこからどのように自由でありうるのか、街の中で暮らすことをどのように考えていけるのかを検討すること、である。これらの内容にそって福祉と生活の問題を考え合っていければ、と思う。(三輪)

発題：伊藤周平（鹿児島大学法科大学院）
島村聡（那覇市役所）
次田健作（大谷女子大学）
司会：古谷一寿（学会運営委員）、三輪寿二（学会運営委員）

【宿泊案内】

総会前日の19日・総会1日目の20日については、学会運営委員は、総会1日目の夜の交流会の会場となる「自治会館」に宿泊する予定にしていますが、学会では、いくらか多めに部屋を仮予約してありますので、「自治会館」に宿泊を希望する方は、学会事務局までお申し出下さい。

部屋は全てツインになります。宿泊料金はツインルームに2人で泊まる場合一人一泊4620円、ツインルームを1人で利用する場合一泊6000円になります(宿泊のみ。朝食が必要な場合はプラス700円になります)。

「自治会館」は、那覇空港から“ゆいレール”(沖縄都市モノレール)で11分の旭橋駅から徒歩3分のところにあります(運賃230円)。国際通りまでも歩いて数分のところにあります。

交流会の会場にもなりますので、同じ屋根の下に泊まって、是非、沖縄の夜を語り明かしましょう。

(宿泊に関する連絡先)

日本社会臨床学会事務局

メール: shakai_rinsho@yahoo.co.jp

TEL&FAX: 029-228-8314

*お名前・ご住所・連絡用メール、電話等・宿泊日・宿泊人数・一室2名利用か1名利用か、をお知らせ下さい。仮予約した部屋数には限りがありますので、お申し込みは先着順とさせていただきます。

カウンセリング・幻想と現実

日本社会臨床学会 編 定価各巻3000円+税

近年、カウンセリングが大衆化現象をみせている中で、カウンセリングの思想と技法に疑問と批判を提起し、そこから現代社会を考えようとする日本社会臨床学会の立場を明確にし編集された。本書は上下2巻に分かれ、上巻は、カウンセリングの歴史と理論に焦点を当てながら、現代社会のありようとカウンセリングの関係を開いている。下巻は、学校・地域・病院などの社会の各領域でカウンセリングはどのように機能し、そでの生活にどんな問題を引き起こしているかを考察した。

上巻 理論と社会

第I部 カウンセリングの歴史と理論

第一章 カウンセリングの歴史と原理……………小 沢 牧 子
 第二章 戦後日本におけるロジャーズ理論……………林 延 哉
 第三章 戦後精神医療とカウンセリング……………赤 松 晶 子

第II部 現代社会論とカウンセリング

第四章 生涯学習・管理社会におけるカウンセリング…中 島 浩 籌
 第五章 消費社会の神話としてのカウンセリング…井 上 芳 保
 第六章 感情労働とカウンセリング……………石 川 准
 第七章 資格社会とカウンセリング……………佐々木 賢

下巻 生活と臨床

第I部 医療・管理とカウンセリング

第一章 病院精神医療とカウンセリング……………三 輪 寿 二
 第二章 地域精神医療とカウンセリング……………広 瀬 隆 士
 第三章 職場のメンタルヘルス対策とカウンセリング…武 田 利 邦
 第四章 阪神淡路大震災/PTSD/心のケア……………大 野 光 彦

第II部 子ども・若者・学校とカウンセリング

第五章 児童相談現場とカウンセリング……………三 浦 高 史
 第六章 学校現場とカウンセリング……………渡 部 千代美
 第七章 相談室という現場とカウンセリング……………島 根 三枝子
 第八章 臨床的営為とカウンセリング……………加 藤 彰 彦

第III部 解放・自立論とカウンセリング

第九章 女性とフェミニストカウンセリング……………佐 藤 みどり
 第十章 ビア・カウンセリングを考える……………篠 原 睦 治

現代書館

東京都千代田区飯田橋3-2-5
 電話03(3221)1321 FAX03(3262)5906 <http://www.gendaishokan.co.jp/>